別記第２号様式

平成１８年度　中間評価調書

機 関 名　アイヌ民族文化研究センター
研究責任者　研究課長　古原　敏弘
研究担当者　研究職員　大谷　洋一

課題番号	ア文研一般1806	研究課題名	カムイとアイヌの相互交渉に関する調査研究				
課題担当者	１ 人						
共同研究機関 (協力機関)		研究区分	研究	試験	調査	分析	各種施策等との関連性
							(第3次北海道長期総合計画) 社会を形成する 中項目:アイヌの人たちの民族としての誇りが尊重され地位の向上が図られる社会の実現 小項目:アイヌ文化の保存振興とアイヌの人たちに対する理解の促進
研究期間及び所要見込額（千円）	16年度～22年度	前年度以前	当年度	翌年度以降	全体所要額		
		830 (830)	366 (366)	1,715 (1,715)	2,971 (一財 2,971)		

研究の概要

直近の研究課題評価結果
平成 15 年度　事前　評価
【自己評価】　Ⓐ・Ｂ・Ｃ
【総合評価】　Ⓐ・Ｂ・Ｃ

○研究背景
・アイヌの伝統的な考えでは、アイヌ（人間）がこの世界で生きていくためには様々なカムイ(神）の加護の必要があり、カムイの側もアイヌに祭られることで神の世界での充足した生活が保障されているといわれている。そのため、必要に応じて互いに連絡を取り合うのであるとされ、このような場面が口承文芸の中でも多く見られる。また、日常生活でも実際に起きたこととして語り伝えられてきた。このようなカムイとアイヌの関係を詳しく知ることは、アイヌ文化を理解する上で重要であると考えられる。しかし今までの研究では、このような問題について、概説にとどまるか、または託宣など特定の事象について論じられることが多かった。

○研究目的
・カムイとアイヌの相互交渉について、様々な事例を収集し、それらのデータの分析に基づいてアイヌの世界観の一端を明らかにする。

○研究内容
・既存の文献・音声資料などから様々な事例を収集するとともに新たに聞取り調査を行いデータを収集し、それらの比較検討を行なう。

○研究計画の適切性
・調査対象の既存資料（口承文芸700編及び事例報告多数）及び聞取り対象となる人は幅広く各地にいると予測されることから、資料の収集と分析には比較的に長い研究期間が必要である。

研究の進捗状況

○研究計画に照らした進捗状況・目標達成度など（進捗度・目標達成度【ⓐ・ｂ・ｃ】）
・聞取り調査で得た採録テープの内容整理について若干の遅れが生じているものの、研究計画の柱である文献資料からの事例収集及び聞取り調査そのものは予定通り進んでおり、計画全体には遅れは生じていない。

○年次別目標とそれに対応する実績
・H16年度：予備調査として、既存資料のリストを基に優先度の高い文献に掲載された口承文芸88編を分析し事例39件を確認するとともに、聞取り対象者の所在について情報の入手を開始。
・H17年度：聞取り調査及び文献資料からの事例収集。口承文芸180編を分析し事例210件確認。
・H18～19年度：聞取り調査及び文献資料からの事例収集。
・H20～21年度：データ整理と補足調査
・H22年度：分析結果のまとめ

今後の見通し

○研究開始後の事情変更の有無
・主な伝承者が高齢化のために、聞取り調査の緊急性は更に増している。

○研究計画の見直しの必要性
（期間の妥当性【ⓐ・ｂ・ｃ】　経費の妥当性【ⓐ・ｂ・ｃ】）
・研究計画の変更はないが、伝承者からの聞取り調査は相手の健康状態などを考慮する必要があるため、現地の伝承者及び調査協力者との連携を更に密にして行なう。

○期待される成果とその実現可能性、成果の有益性・活用可能性
（実現の可能性【ⓐ・ｂ・ｃ】　活用の可能性【ⓐ・ｂ・ｃ】）
・調査研究の成果は、アイヌの口承文芸や信仰を理解するための基礎的なデータとして研究紀要や学会誌で発表する。また、各地域における聞取り調査で得た体験談等の資料は、地域史や生活誌の基礎資料として活用が期待される。

【自己評価】 Ⓐ・Ｂ・Ｃ	【説　明】 本研究は、聞取り調査対象を広げるなどして、アイヌの信仰や口承文芸に関する多くの事例の収集を進め基礎資料の蓄積を図っており、その資料の分析により新たな知見が期待できることから、引き続き研究を行う必要がある。
【総合評価】 Ⓐ・Ｂ・Ｃ	【意　見】 口承文芸から多くの事例を確認するなど、アイヌの伝統的な生活文化への考察を進める上で有用な知見が蓄積されてきていることから、当初の計画どおりに取り組みが進められており、今後成果が確実に見込まれる。

(Ａ)当初（事前評価時点）の計画どおり、または計画以上に取り組みが進められており、今後成果が確実に見込まれる
(Ｂ)当初（事前評価時点）の計画に比べ、やや遅れが見られるが、概ね目標は達成しており、今後効率化などの努力により一定の研究成果が見込まれる
(Ｃ)今後の見通し等に問題があり、中止を含めた抜本的な見直しが必要である
(ａ)極めて高い、適切である　(ｂ)高い、概ね適切である　(ｃ)低い、改善の余地がある